

隠岐紀行

事務局長 池田良穂

境港管理組合の設立 60 周年記念式典で記念講演をさせていただく機会に恵まれました。境港は、鳥取県と島根県の県境にあり、鳥取県と島根県が共同で組合組織を作って管理運営をしています。

前日に大阪空港から出雲空港に飛び、レンタカーを借りて七類港に向いました。七類港は、境港港から北側に山を越えた日本海に面した港で、隠岐諸島へのフェリー基地になっています。隠岐汽船が、高速船 1 隻と在来型カーフェリー 3 隻で定期航路を運営しており、一部の便は境港発着もあります。

七類港からは 9 時と 9 時半にカーフェリーが出港します。隠岐諸島には隠岐という島はなく、北に位置する島後と、本土寄りに位置する島前があり、9 時発の第 1 便は島後の西郷港に寄港してから島前の港を回って 18 時に七類に戻り、9 時半発の第 2 便は先に島前の港を回ってから、島後の西郷港に寄って 17 時半に七類に戻ります。

他の 2 隻は、島発となっており、冬季はカーフェリーだけが境港との間を結んでいます。

出雲空港から 50 分ほどで七類港に到着しましたが、ちょうど第 1 便の「フェリーおき」が出港するところでしたので、同船を見送ることができました。

第 2 便の「フェリーくにが」の乗船手続きをして、乗り込みました。最初は同船で一周するつもりでしたが、時刻表を調べてみると、島前で反対周りの「フェリーおき」に乗り変えると 2 隻に乗船することができ、「フェリーくにが」の走航中の姿も撮影できることが分かりました。船に乗ると、その船自身の姿は港で着岸中のものしか撮影ができないのが悔しいのですが、それが解消できそう。さらに乗り継ぐ間の時間を利用すると島前の島々を結ぶフェリーにも乗船ができることがわかりました。

さて隠岐航路に乗船するのは 10 年ぶりです。実は離島航路の中では、隠岐航路には特別の思い出があります。それは 40 年以上も前の学生時代に、大阪の古本屋で「隠岐航路史」という分厚い社史が売りに出されており、7000 円という価格が付いていました。月 3 万円ほどで生活していた学生にとっては大金で、すぐには手がでませんでした。3 ヶ月程してまた店にいとってみると、まだ本棚に並んでいました。これもなにかの縁と、清水の舞台から飛び降りるつもりで購入しました。これをベースにして隠岐航路の記事を雑誌に書き、その縁で隠岐汽船が新しい社史を作る時に少しお手伝いをさせていただきました。また、隠岐汽船を監督する島根県から高速船サービスの在り方を検討することでご相談を受けたこともありました。

以下、写真での隠岐諸島周遊紀行です。



① 七類港に到着すると、ちょうど「フェリーおき」が出港するところでした。



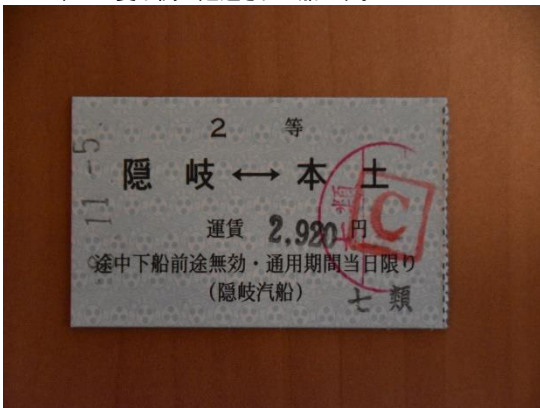
④ 出港すると七類港の入口付近の風光明美な海岸の景色が続きます。



② 第2便の「フェリーくにが」が停泊していました。平成11年に三菱下関で建造された船です。



⑤ 出港してしばらくするとジェットフォイル「レインボージェット」と反航しました。三菱製の2隻の双胴型全没翼型水中翼船は引退して、ジェットフォイルに代替されました。



③ 隠岐汽船のチケットは、昔の鉄道切符のような小さな硬い切符でした。さすがにハサミは入れず、スタンプでした。



⑥ 島前の最初の島である知夫島に近づくと、島発の「フェリーしらしま」の姿が見えました。朝に島をでて、境港に午後に到着して、折り返し島に戻ります。



⑦ 反航する「フェリーしらしま」です。



⑩ 美しい島前の内海を航海します。左が西ノ島町、右が海士町、そして中央の隙間の先に見えるのが島後の沖の島町で、ここには西郷港があります。



⑧ 知夫島の来居港(くりい)に寄りました。停泊時間は 10 分程でした。



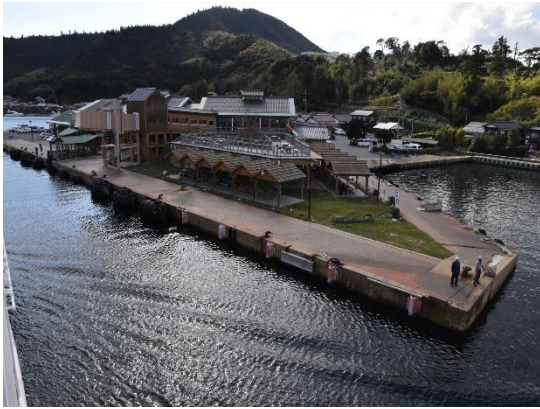
⑪ 島前の西ノ島の別府港まで約 30 分の航海でした。



⑨ 船は西ノ島の別府港に向かいます。島前島内を結ぶ高速旅客船「いそかぜ」と出会いました。



⑫ 島前の島間を結ぶカーフェリー「フェリーどうぜん」と出会いました。



⑬ 別府港をでてわずか 15 分で海士町の菱浦港に到着しました。ここで「フェリーくにが」を下船しました。



⑭ 港の近くのレストランで隠岐牛の焼肉を堪能してから、フェリーどうぜんに乗って、別府港に渡りました。15 分の航海でした。料金は 300 円でした。



⑮ フェリーくにがの出港を見送りました。



⑯ 15 時 15 分に菱浦港を出港した「フェリーおき」が、別府港に入港してきて、よい写真が撮れました。夕刻が迫ってきて、⑮の昼間の写真とは違って、赤みを帯びた色になっています。



⑰ 13 時過ぎに「フェリーおき」が入港してきました。菱浦港で 2 時間停船した後、別府港経由で七類港に向います。



⑱ 「フェリーおき」に乗船して、別府港をあとにしました。



⑱ 「フェリーおき」の船内の一部です。大部屋の 2 等から個室の特別室まで様々な船室が用意されています。2 等はどの港まで行っても 2920 円という均一料金でした。



⑳ 七類に到着するまでに日が落ちました。空には飛行機雲が何本も金色に光っていました。